



**開催中**

## 企画展「名古屋空襲を知る—なごや平和の日制定に寄せて」

2024年3月12日(火)～5月18日(土)

3月21日、名古屋市議会本会議で「なごや平和の日」制定条例案が可決され、1945年に名古屋城天守が焼失した「5月14日」に定められました。名古屋空襲の犠牲者を悼み、戦争体験を若い世代に語り継ぎ、平和の意識醸成を図るためとされています。

ピースあいちでは毎年様々な視点から「名古屋空襲」の企画展を開催してきました。今年、「なごや平和の日制定」を機に、近年公開された米軍の空襲資料を通して、「名古屋空襲」はどんな空襲であったのか、改めて考えたいと思います。

また、名古屋空襲慰霊の日制定を市に訴え続けてきた東邦高校の生徒たちの活動の経緯、体験談から平和について学んだ東邦高校美術科生徒の作品を展示しています。

### ◆関連イベント 1

#### ギャラリートーク 3月16日(土)

戦争体験のお話を聞いて美術科1年生が制作した油絵、水彩画、立体造形など42点の作品が展示されています。ピースあいち語り手の<sup>かきひ</sup>寛久江さんのお話をお聞きしてから半年、ウクライナやイスラエルなど世界に目を向け、「戦争とはなにか」「平和とはなにか」を作品に仕上げました。「戦争のつらさを伝える作品をと思ったが考えているうちに戦争を乗り越えた先の未来をつくりたくて…タイトルは“希望”です」など作品を前に10人の生徒が制作の思いを語りました。

また、1944年12月13日、勤労働員先で空襲の犠牲になった先輩18名と教員2名の慰霊祭を続け、「なごや平和の日」制定のきっかけをつかった東邦高校の平和活動をたどるパネルを前に、先輩たちから受け継がれてきた活動についてのお話がありました。このギャラリートークの様子は2階映像コーナーで観ていただくことができます。

### ●展示内容●

- パネル展示 アメリカ軍の資料からみる日本への空襲作戦  
第Ⅰ期 軍樹工場への爆撃(1944年11月24日～1945年3月9日) 三菱重工業名古屋発動機製作所、三菱重工業名古屋航空機製作所(現ナゴヤドーム)などへの空襲  
第Ⅱ期 大都市焼夷作戦(1945年3月10日～6月15日)  
名古屋で実行された日本初の「焼夷空襲試験」など  
第Ⅲ期 中小都市空襲(1945年6月17日～8月15日)  
◆空襲に対する名古屋の防空体制  
◆名古屋の国民学校100校が燃え破壊された!など21枚のパネルで解説。
- パネル展示 東邦高校の平和活動  
「～紡がれた想い、紡ぐ想い～」東邦高校生徒たちが作成
- 作品展 空襲体験者のお話を聞いて制作した東邦高校美術科生徒の作品展



作品展コーナー



パネル展示



パネル展示



あいち戦災空襲犠牲者名簿コーナー

### ◆関連イベント 2

#### 名古屋空襲から79年 犠牲者追悼の夕べ 3月23日

第1部では、1945年3月25日の空襲で左目を失った杉山千佐子さんの空襲体験をピースあいちの語り継ぎ手の石川薫さんがお話しました。

第2部は、ピースあいち前庭に安置されている平和地藏前でともしび法要が行われました。ボランティア手作りのペットボトルのともしびが並び、建昌寺と瑞光寺の僧侶による読経のなか、参加者が次々と追悼の祈りを捧げました。



**予告** 準常設展「沖縄から平和を考えるー辺野古の海は今」 6月4日(火)~7月13日(土)

2024年1月10日、政府は大浦湾埋め立てを強行しました。2019年の県民投票で7割を超えた人が名護市辺野古の埋め立てに反対したにも関わらず、その後も沖縄県が求めてきた対話にも応じず工事を始めました。普天間基地の早期返還には辺野古新基地は唯一の解決策だと政府は説明しますが、軟弱地盤が広がる大浦湾の工事には莫大な費用がかかると言われています。一口に「辺野古」と言っても問題点が多いのが現状です。

今回の展示では豊かな海である辺野古の全体像、辺野古移設計画、「代執行」などを検証し、理解を深めることができたらと思います。

◆関連展示

○2階プチギャラリー

沖縄戦を語り継ぐ:自治体の取組み

○2階映像コーナー

【語り継ぎ】

父の沖縄戦《中村桂子》

比嘉俊太郎さんの沖縄戦体験《服部忠一郎》

【紙芝居】

南風原文化センター蔵の映像紙芝居

○3階視聴コーナー

動画(辺野古の全体図、米軍基地、新基地計画など)

◆イベント

「トーク&映画」

6月23日(日)13時~16時30分

トーク: 阪井芳貴先生

映画:



(2022年製作/130分)

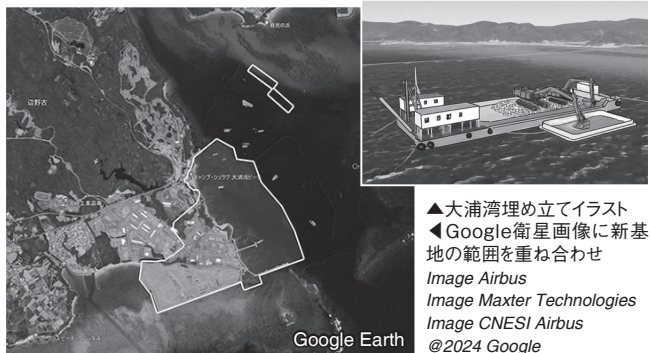
第二次世界大戦末期の沖縄で、犠牲をいとわない軍部に対し、沖縄の人々を懸命に守ろうとした戦中最後の官選知事・島田勲と職務を超えて県民を守るべく奔走した警察部長・荒井退造を中心に描く。それぞれの苦悩や葛藤などの生き様を通して、「人間の命の尊さ」を伝える映画です。

**予告**

「ウクライナの子もたちが描いた絵画展  
~今、戦時下からのメッセージ」

5月21日(火)~30日(木)

NPO法人チェルノブイリ救援・中部が現地パートナー団体の協力を得て、学校や絵画教室などに呼びかけて届いた、ウクライナの子もたちの絵画展です。今もまだ戦火の下にある人々の命の重さ、心と体の痛みに今一度思いを寄せましょう。



▲大浦湾埋め立てイラスト  
◀Google衛星画像に新基地の範囲を重ね合わせ  
Image Airbus  
Image Maxter Technologies  
Image CNESI Airbus  
@2024 Google

常設展が

英語でも観覧できるようになりました!

2022年10月から始めた常設展示の英語翻訳が完成。館内Wi-Fiに接続し、パネルと資料のQRコードを読み込むと英文が読めるようになりました。翻訳に関わったのは高校生を含め16名のボランティアです。

昨年12月9日には交流会「TALK & TALKーピースあいちの国際化って?」を開催し、英語翻訳に取り組んだボランティアが、その過程で考えたことなどを紹介。3月9日には、常設展示英語版公開記念交流会「TRY&TALK それぞれが考える戦争と平和」を実施しました。高校生や大学生の参加が多くみられ、スマホを使って英文を興味深く読んでいました。交流会では、英訳展示を体験した参加者の感想や、戦争と平和について私たちはどう向き合っていくといいのかが話されました。

英訳チェックをお願いしたLouise Haynesさん(Writer for Social Issues in Song)は、「名古屋にきて32年になりますが、初めて名古屋、愛知の歴史を知りイメージが変わった。ピースあいちの存在とエネルギーに感銘を受けた」と話しました。



**予告** 入館無料

「開館17周年ピースまつり」は  
5月4日(土)11時からです。

ピースあいち今年開館17周年を迎えます。朗読会、キーナ演奏などのステージ企画、展示ガイドなど皆さんに楽しんでいただける企画を準備しています。

**報告** 第11回寄贈品展「戦争が遺したモノたち」 2023年12月5日(火)~2024年2月24日(土)

34名の寄贈者から寄贈された263点の資料を展示公開しました。

初日の「オープニングイベント」では、4名の寄贈者から寄贈品のエピソードをお聞きました。両親が営んでいた「攻空寮」での特攻兵士との幼い頃の思い出や、満蒙開拓青少年義勇軍に入隊した父親の体験など、寄贈品への思いが伝わるものでした。

また、1月27日に開催された「寄贈品展トークイベント…寄贈品から見えてくるもの」では、寄贈者、資料班担当者、研究者(愛知学院大学准教授 広中一成さん)の立場から寄贈品について語っていただきました。空襲で犠牲となった名古屋市立第三高等女学校(現旭丘高校)の女学生と残された母親の悲しみ、10年間の海軍生活を記した忘備録の詳細、「連合軍による名古屋地区地勢調査書(1945年6月15日付)」から見えてくるものなど、お話から寄贈品への理解がより一層深まりました。

同展を通して、「戦争が遺したモノたち」が、戦争の記憶を風化させることなく伝えてゆく大切な役割を担っていることを、改めて感じました。



◆関連イベント

蓄音機で聴く戦前・戦後の歌謡曲 2月10日(土)

戦前・戦後庶民に親しまれた歌謡曲を蓄音機で聴く活動を続けている「SP倶楽部78」のみなさんによる解説つきの曲紹介。「検閲が厳しくなる前」「検閲が厳しくなった頃」「戦後の自由な空気の中」という3区分で紹介していただきました。

参加された方からは「逸話など知り、その時代の息吹が伝わりました。」「NHKの朝の連続ドラマ“ブギウギ”とのタイミングにも合い、効果的で、楽しく聴くことができました。」「戦後の“リンゴの唄”がづらい思い出をかかえてやっとの思いで明るく歌ったとは、心にしみることでした。」などの感想が寄せられました。



**報告** ピース クリスマスコンサート 12月17日(日)

名古屋二期会アンサンブル研究会によるコンサートが4年ぶりに復活しました。

平和を願う歌、コミカルな演出を交えたオペラの一場面、クリスマスソングなど、たっぷりの声量がピースあいちに響き渡るひと時を心行くまで楽しみました。最後は会場全員で「きよしこの夜」を歌いました。



**報告** 未来の中学生に送るメッセージ ~神丘中学校3年生

1月16日(火)~3月30日(土)

2階プチギャラリーいっぱい貼り出されたメッセージ。その数165枚。名古屋市立神丘中学校(名東区)3年生の生徒が歴史学習の集大成として取り組んだ「現代に生きる私たちが、22世紀の中学生におくるメッセージ」です。このメッセージにピースあいちのボランティアが書いたお返事を合わせて展示しました。



**予告** 夏の特別展「マンガと戦争」展 7月23日(火)~9月14日(土)

京都国際マンガミュージアムにご協力いただき、巡回展「マンガと戦争展 6つの視点と3人の原画から」から、「原爆」「特攻」「満州」「沖縄」の4つのテーマで16の「戦争マンガ」を、パネルと関連資料で紹介。また、名古屋空襲を描いたおざわゆきさんの「あとかたの街」特設コーナーも設ける予定です。

今なお戦争が無くならない世界情勢の中、マンガという優れたメディアは戦争を考える様々な視点を示してくれるでしょう。



◆展示作家(予定 敬称略)◆

おざわゆき 花村えい子 里中満智子 松本零士 本宮ひろ志 中沢啓治 辰巳ヨシヒロ 西岡由香 こうの史代 ちばてつや 田河水泡 村上もとか 安彦良和 ほし☆さぶろう 今日マチ子 新里堅進 三枝義浩

## 平和へのメッセージ

最近、テレビ、新聞を賑わすウクライナ、パレスチナ、能登半島からの報道に共通するのは何かといえば、住宅や道路などがメチャメチャに壊され、多くの人命が失われたことでしょうか。でも共通しないこともあります。能登半島が強烈な地震の直撃を受けた、半ば、自然災害

だったのに対して、ウクライナ、パレスチナは人間が始めた人災でした。やめようと思えばいつでもやめられる争いなので、意地と欲とがからまって、その糸がほぐれないのです。戦争のない世界を皆が待望しているのなら、戦争をやめましょう、みんなが言えればいいのです。

### 「新しい戦前」にはなりません

タモリさんの「新しい戦前」という言葉が実感を持って受け止められています。真っ先に思い浮かんだのは、2015年の戦争法の強行です。その前年に、国会の議決を得ることなく、一内閣の閣議決定で集団的自衛権の行使が容認されました。憲法をこわすものです。大きな怒りと不安を覚え、栄で行われた抗議集会に参加しました。

先日、愛知県平和委員会の城下英一さんの話を伺いました。自衛隊守山第10師団を例に取り、2015年の戦争法以降、自衛隊では訓練内容が変わり「殺し殺される」を前提とした訓練が行われていること。また、岸田政権が「敵基地攻撃能力の保有」に言及

島田 智子  
(バイリンガルプロジェクト)



し、自衛隊の基地強靱化計画－核・生物・化学戦争を想定して基地を地下に建設する計画－が進められていることが話されました。それで司令部は生き残るかもしれません。しかし、周辺に住む住民はどうなるのでしょうか。犠牲になるのは住民です。愛知空襲の被災者たちの生の声と重なりました。

始まったらハッピーエンドはありえないのが戦争です。ウクライナやガザへの侵略がそれを教えてくれます。戦争の準備ではなく平和の準備にこそ、お金と知恵を使ってほしい。

### 「平和を繋ぎ、築ける人に」

戦争体験の語り継ぎ手になるため、1年ほど前から少しずつ、体験された方のお話を聞いている。それまで戦争は自分からは遠い出来事という認識でいたが、体験された方々のお話は壮絶で、切実で、お聞きする度に、当時生きていた方のことを決して他人ごとだと思えなくなった。資料に記された数字や出来事にどれほどの人生が左右されたのかを想像するようになった。私も語り継ぎ手になるからには、教えてくださった方のように戦争のことを血の通ったものとして伝えられるようになりたい。

また、今年度は語り継ぎとは別に、演劇という形式でこの課題に取り組む。劇団うりんこの「ある晴れた

井上 由貴  
(俳優・ピースあいち語り継ぎ手の会会員)



夏の朝」という作品で、様々なルーツを持つアメリカの高校生達が広島・長崎への原爆投下をリサーチし、その是非を問う公開ディベートをするお話だ。私はチャイニーズアメリカンの女の子役で、日本の加害の歴史にも踏み込んで伝えることになる。稽古を通して、語り継ぎで伺ったお話とは別の視点ではあるが、国や時代が違って、そこに人間がいて戦争は人間が人間に与えた最悪の影響である点が変わらないことに気づいた。多角的に歴史を捉えて届けることに努めて、観てくださった方と一緒に、これからの平和を築いていきたい。

## 戦争遺跡に平和を学ぶ

私が住む三重県にも戦争遺跡がたくさん残っています。四日市、伊賀、熊野にはかつての植民地の責任を学べる遺構や碑があります。県内に軍隊の飛行場が11ヶ所作られ、飛行機を隠す掩体(えんたい)、地下指令所、倉庫や地下壕などが今もあります。四日市と鈴鹿には軍需工場の跡が残り、四日市、亀山、津には地下工場が現存します。志摩半島では本土戦のための海軍特攻基地が10ヶ所、陸軍の本土戦陣地も多く残り、トーチカだけでも14基を数えます。空襲の跡は各地に残り、空襲警報を出すもとなった防空監視哨も4ヶ所で遺構が確認されています。子どもたちを戦争に駆り出すための奉安殿も11基が現存します。

岩脇 彰  
(三重県歴史教育者協議会)



これらの戦争遺跡を実際に見て、それらが持つ歴史的背景を学ぶことで、自分たちの地域にも戦争の爪痕が残っていることを知り、戦争の残虐さや非人間性を学ぶことができます。同時に、地域が戦争に加担していたこともわかります。

私たちは戦争遺跡の調査と発信を続けていて、今年も新しい戦争遺跡を確認しました。希望があれば案内や見学会をしています。ぜひ身近な戦争遺跡を見学し、そこから戦争の事実を学び、これから平和をどう守っていくかを考えるきっかけになればと思います。

## 今、自分にできる「平和へのメッセージ」

「戦争と平和の資料館 ピースあいち」との出会いは、今年の「新美南吉企画展」でした。新美南吉の代表作「ごんぎつね」「手袋を買いに」に登場する狐君を作成する依頼が舞い込み、ぎつねを3体作成し、企画展のマスコットとして参加しました。その後、講演会や朗読会、ピースクリスマスコンサートなどのご案内をいただき、良き時間を共有できました。

多くの人々が「戦争は、いやだ。平和が、いい。」と思っています。でもそのことを文章にすることは大変難しい。なので、世界いち長い歌「ねがい」Our Wishの一部をここで紹介します。

もしもこの頭上に落されたものが／ミサイルではなく

巽 利武  
(ピースあいち会員)



本やノートであったなら／無知  
や偏見から解き放たれて君は  
戦うことをやめるだろう

子どもたちの声が大人たちの

思いが、世界中からこの歌に寄せられています。そして私から—もしもピースあいちを知ったなら、戦争のことを伝え、平和のための手作りの市民の活動の輪—ピースあいちにあなたもきっと参加・協力するだろう。

私は今、愛知県教育委員会認定の「博物館相当施設・戦争と平和の資料館 ピースあいち」の会員となり、ボランティア活動を始めます。

## 小さな幸せを発見した蓄音機コンサート

これまで私は蓄音機コンサートをコミセンなどで開いてきましたが、参加者はお年寄りが大部分です。驚くのはコンサート中の変化で、最初はシーンとしていても、美空ひばり「お祭りマンボ」、春日八郎「お富さん」、グレン・ミラー楽団「イン・ザ・ムード」などをかけると手拍子を打つ人も現れます。そして最後は全員合唱で「青い山脈」。皆さん大きな声で歌われるのです。1時間足らずで緊張した面持ちの皆さんが笑顔に変わるので。これはすごい!

和田秀樹氏が著作で述べているように、身体が健康であってもやる気(行動する意欲)をなくしては健康とは言えないのです。健康であることだけを幸せ

井上 雅紀  
([SP倶楽部78]代表)



と呼ぶことはできない。高齢化社会における社会の役割は、老人にやる気を起こす機会を与えることだと感じています。コミセンで

目の前にいるお年寄りが解放されていく瞬間に遭遇した私は大きな喜びを感じました。蓄音機もSPレコードも趣味から始めたことですが、趣味が高じて新しい幸せが見つかった思いです。私にとって個人的な幸せですが、世の中にあるこれらの幸せを集めれば大きな幸せとなり、それがパワーとなって小さな平和につながるのではないかと思います。蓄音機コンサートで、少しでも幸せを感じていただけたなら私も幸せです。

**報告** ■ **語り手の会活動**

**語り手の皆さんと工夫しながら**

2023年度の戦争体験語り事業は66回、視聴者数4877人(来館者891人、派遣3986人)(昨年は61回、3419人)。「語り手」参加者は延べ38人、「語り継ぎ手」は延べ26人。団体の約75%が小・中・高校・大学生で、中でも小学6年生の参加が多数です。

戦後79年になり、兵士、戦場、被爆体験は語り継ぎ手に引き継がれ、ご本人による体験談は空襲・学童疎開が中心となっています。映像や写真の活用、体験画など語り方や伝え方などを語り手のみなさんと工夫しながら取り組んでいます。

体験談を聞いた子どもたちは「暮らし方も食べている物も今とは全然違うし、たくさんの人の命が奪われて、戦争は止めるべきだと改めて思った(小学生)」「70年前にそんなことがあったのかと思うことが多く、ものすごく勉強になりました。とてもいい経験になりました(中学生)」などの感想を寄せてくれました。体験した人が少なくなっている中で、生きた歴史の話聞かせる機会が増えることを願っています。



■ **ガイド研修会 1月20日(土)**

東海高校教諭の西形久司先生(当NPO理事)を講師に迎え、ガイド研修会を開催しました。新しいボランティアさんが増え、早くガイドの勉強会をとという声もありましたが、コロナ禍もあり2017年以降の実施で、24名の参加がありました。

2階常設展示の英語版にも尽力いただいている西形先生のお話は、展示の理解を深める上で興味深いものでした。パネルをただ読むだけでなく、その裏に隠されたエピソードを読み取ることの大切さを教えていただきました。

「ピースあいち」のボランティアであれば、ガイド希望でなくても参加できます。今後もこのような機会を設けていきます。



■ **語り継ぎ手の会(リボン)の活動**  
**試演や勉強会・会員同士の交流を深めて**

戦争体験者の「語り」がだんだんと困難になってきている中で、語り継ぎ手の活動は大きな役割を果たしてきています。リボンでは、2か月に一度の例会で、試演や勉強会・会員同士の交流を深めています。



映像の使い方、元テレビアナウンサーの方から「よりよい話し方」を学んだり、交流会では、実際の「語りの場」での苦労や工夫も交流しています。2月の例会では話し手と聞き手の二人で「語り合い」ながら語るという新たな語り継ぎの方法で試演が行われました。また、「シナリオ」を活用した語り継ぎの方法も紹介されました。

今後はさらに、語り継ぎ手を増やし、他団体との交流をすすめながらより良い語り継ぎを目指していきます。

■ **ボランティア全体会**

2023年中にボランティア活動に加わった23人のうち11人の方が参加して、3月23日ボランティア全体会が、開かれました。それぞれに



自己紹介と活動参加の動機などを話されましたが、中でも高校生の方々がしっかりと自分の意見を持ち、活動の場を広げていきたいと意欲的に話したことに「ピースあいち」の未来に希望を見た思いがしました。

会の後半では常設展の英語翻訳にご尽力いただいた方から、英語の方が日本語よりやさしく解説されていた所もあって分りやすかったとか、戦中の日本語を的確に英語にすることの難しさについての意見も出されました。

最後にボランティアでありながらプロ級の歌手である方の心に染み入る2曲の歌に大きな拍手が贈られました。

**2階常設展示室に「児童図書コーナー」と「企画展映像コーナー」ができました!**

● **映像コーナー**

開催中の企画展の見どころやイベントの様子を編集し、大型映像画面で見られるようにしました。また、ピースあいち語り手による戦争体験談の動画(ダイジェスト版)も見ていただくことができます。

● **児童図書コーナー**

子どもたちが気軽に本を読める場所を2階に設けました。児童向け図書約230冊があります。また一階には企画展関連の図書を配架しました。図書班のメンバーが増え、新しい試みを始めています。



シリーズ  
平和を守る仲間たち⑱ 敦賀空襲を伝える取り組み

敦賀市は1945(昭和20)年7月12日にB29編隊による焼夷弾投下、7月30日に艦載機攻撃、8月8日に模擬原爆投下という3回の空襲を受けています。また同年5月19日から6回にわたり敦賀湾に機雷投下を受けています。

気比神宮に近い敦賀市元町の本勝寺に、戦災慰霊碑が1981(昭和56)年に建てられました。慰霊碑の裏面には戦災犠牲者220人の氏名が刻まれています。2019(令和元)年以降は戦災遺族の孫の世代の「遺族次世代の会」と本勝寺の共催で慰霊法要が7月12日に行われています。

敦賀市松島町の永建寺には、東洋紡績敦賀工場

で模擬原爆と艦載機攻撃で亡くなった人、東洋紡績で被災し戦後亡くなった人合計42人の位牌があり、東洋紡績敦賀事業所主催により毎年慰霊法要が行われています。

敦賀駅交流施設オルパークで開かれる原爆パネル展に併設して、敦賀空襲に関する展示も行っています。福井駅前でも福井と敦賀の空襲を伝える展示とつどいが行われています。

郷土史同好会の「気比史学会」では敦賀空襲体験を聞く催しを行ったり、市民歴史講座で敦賀空襲を扱ったりしています。

木戸 聡(敦賀市)



ボランティアの窓

「平和」なればこそ集い  
高橋 幸子

18歳からずっと歌っていた合唱団をやめ、新しい集まりに参加して10年になります。

「発表会を目的としない、訓練をしない、競わない」をモットーとし、一回ごとの集いで共に歌い合うこと、親しく語り合うことを大事にする集いです。気楽に参加して、明るく楽しく歌い、お喋りもく競わず、競わせず、競わされずです。40人ほど参加するみなさんの平均年齢は75歳くらいですが、混声で毎回たっぷり歌い楽しく語りおやつもいただき満足して帰ります。合唱は趣味のなかでは一番お金がかからないのではないのでしょうか。この集いは1回500円です。経費は場所代とピアノの謝礼のみなのでそれで済んでいます。

こんな集いも「平和」なればこそです。私の知っているロシア民謡は殆どウクライナ民謡と聞いています。ウクライナでは今もみんな歌っているのでしょうか？



寄贈品への想い  
中西 千晶

先日、今年度の寄贈品展が終了した。資料班では寄贈者からお話をうかがう機会が多い。今年度の寄贈品展オープニングイベントにご参加いただいた寄贈者は、偶然にもご家族が戦地に行かれた方が多かった。

非常に保存状態の良い寄贈品。なぜこれほど良い保存状態で残すことができたのか、お母様の努力を語られた寄贈者。

お父様の戦地での体験を、体験したかのような臨場感で語られた寄贈者。

どの方のお話からもご家族への強い想いが伝わってくる。そして実際に戦地を体験したご家族が、話すのも辛いであろう体験を詳細に次世代へ伝えられたこと。

その気持ちを思うと、改めてお預かりした寄贈品を平和のためにしっかり受け継いでいきたいと感じた。



資料館探訪 37

津市香良洲歴史資料館 一三重県津市一

津市香良洲歴史資料館は、かつて香良洲地域にあった三重海軍航空隊(予科練)の関係者により、1980(昭和55)年に「若桜会館」として開館し、1998(平成10)年に旧香良洲町に寄贈され、香良洲歴史資料館となりました。現在は津市香良洲歴史資料館となり、「戦争と平和」をテーマとした施設です。

太平洋戦争の戦線の拡大とともに航空隊要員の増強が急務となり、実機に触れるまでの基礎学習を行う予科練も増強されました。予科練教育を一手に引き受けていた土浦海軍航空隊だけでは任務が遂行できず、第2の予科練航空隊として1942(昭和17)年、三重海軍航空隊が開かれま

した。最盛期には15,000人以上の予科練生が在隊していたそうです。

資料館の3階は三重海軍航空隊遺品室として、遺影・遺書・遺品および当時の資料を展示しています。展示物が、多くの若い命が空に飛び立っていったことを教えてくれます。

私の母方の叔父は、この香良洲の予科練に入隊していました。終戦となり、特攻での出撃を免れましたが、何かのタイミングの間違いで、この遺影の一つとなっていたかもしれせん。

1、2階は平和への歩み、日本の近代化と戦争、津市内の戦災被害、戦時下の暮らしに関わる資料等が展示されています。津市は飛行機部品

を生産していた三菱航空機津工場などの軍需工場や住宅地への爆撃で市街地の73%が焦土と化しました。展示物の1つである大型のパノラマ写真は、空襲によって焼け野原となった津市の有様を強く伝えています。また、屋外には隊門や煉瓦塀などの遺構もあります。(R. T)



月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

新会員を大募集中!! 知人・友人にもお伝えください。

「ピースあいち」は、民営でボランティア運営でも、光熱費・固定資産税等で施設維持に年1200万円かかります。他方で収入は、展示会などで来館された方の入館料(大人300円、こども100円)は、年100万円にとどきません。多額のご寄付や助成金がとても大きな助けになっていますが、毎年予定できるものではありません。最も頼りになるのは、会員の皆様からいただく年会費収入です。正会員6000円、賛助会員3000円です。いま、正会員が約330人、賛助会員は約400人。もっともっと増やしたいのです。

「ピースあいち」の活動に共鳴していただける方なら、どんなでも大歓迎です。電話・Fax 052-602-4222にご一報ください。クレジットカード、銀行振込で入会、寄付していただけます。



オンラインの  
入会はこちら

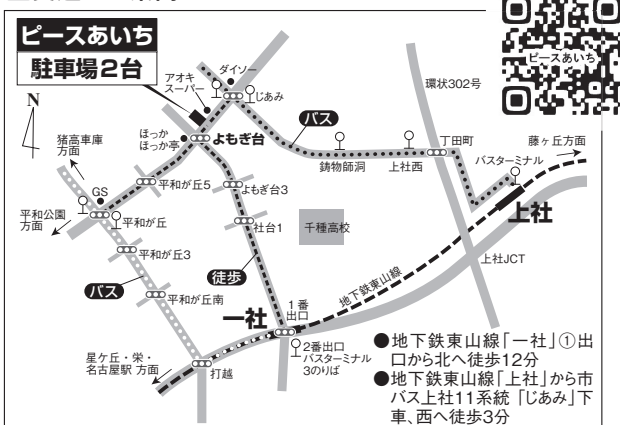


オンラインの  
寄付はこちら

【利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日
- 入館料 大人300円・小中高生100円
- 常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下の暮らし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験動画のライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

交通のご案内



●編集後記●

悲惨な戦いだっただ沖縄戦から80年目の年に入ります。人の平均的な一生の長さに匹敵する時間が過ぎたわけです。これだけの年月が経ても、沖縄に関しては今もまだ新しいことが次々起ります。普天間の移設にからんで名護市辺野古で行われている埋め立ては地盤軟弱と言われながら、沖縄の人たちを無視するかのように入事が進んで行きます。知らないうちに沖縄の幾つかの島には武器弾薬も増強されています。こうした南西諸島の基地化が、地球上の覇権を求めめるアメリカや中国、それに危険な匂いのする北朝鮮をいつ刺激するか、考えてみれば無気味なことです。ピースあいちが沖縄展を始めて、今年で14回目です。展示の中身は2ページで紹介してあります。開催は6月4日です。是非、足を運んでみて下さい。(S.K)